

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会（第25期・第2回）議事録

1 日 時 令和3(2021)年9月29日（水） 15:30～17:30

2 方 法 遠隔会議（Zoom）

3 出席者

（会員）小池俊雄、佐竹健治、中村卓司

（連携会員）東 久美子、久家慶子、中田節也、中村 尚、日比谷紀之、古屋正人

（特任連携会員）辻村真貴

4 議 事

前回議事録（資料1）を確認した。

（1）IUGG 分科会の各小委員会の活動報告（資料2）

IACS、IAG、IAGA、IAHS、IAMAS、IAPSO、IASPEI、IAVCEIの順に、資料2に基づき、各小委員会の活動報告があった。今年度はIAG、IAGA-IASPEI（合同）、IACS-IAMAS-IAPSO（合同）の3つの学術総会がオンラインで開催された。ただし、IACS-IAMAS-IAPSOは17件のオンラインセミナー。IAHSとIAVCEIは、それぞれ2022年と2023年に対面式で実施する。IAHSの2021 International Hydrology Prize (Dooge Medal)の受賞者として沖大幹会員が選ばれた。

（2）IUGGの動向（資料3）

IUGGの執行委員会(Executive Committee)が9月15,16日に開催(Online)された。Agendaに沿って、IASPEI Presidentである佐竹委員から報告された。

IUGGの予算について、COVID-19の影響で余剰が出ている旅費を、他の目的で活用することが議論されている。また、より多くの国に参加してもらうことを検討している。各学術協会からの最近の活動報告に続いて、IUGG傘下の8つの学術協会とは別の6つのUnion Commissionについて活動が紹介された。

2023年7月11—2日にドイツ（ベルリン）で開催されるIUGG2023で選出・決定される執行部役員、決議、次期開催地、Gold Medal、Fellow、Early Career Scientist Awardを決めるための6つの委員会が紹介された。日本からは4名が含まれている。現在の準備状況、今後のスケジュールについても紹介された。Inter-association programを優先する方針である。

Global Geoscience Societies MeetingがAGUの主催で7月30日に開催され、IUGGに加えて、EGU、AGU、AOGS、JpGUも含めた11の国際的な学協会が参加した。共通の目標を学協会間で強化していくための、タスクグループが設立される。

International Science Councilの執行役員の選挙について、立候補状況やIUGGとの関連について紹介された。

IACS から「開催期間の短縮」や「Business Meeting のオンライン化」、それによる「Carbon Footprint の削減」が提案された。

佐竹委員から、2 年後の IUGG2023 に向けて、執行役員メンバーや IUGG の幾つかの Award に日本からの候補者について考え始めるべきとの指摘があり、各小委員会での議論が呼びかけられた。

（３）学術会議の動向

令和 2 年度の行政改革推進会議からの指摘を受け、学術会議が加入している「国際学術団体の活動状況に関する調査」が国際委員会主導で実施され、9 月 30 日締切で「調査票」の提出を求められていた。加入の継続可否について外部有識者による検証を実施される。内部資料の「調査票」、「IUGG の概要」を IUGG 分科会で作成した。また、IUGG President の Kathy Whaler 氏からのサポートレターも添付した。

小池委員から、学術会議の「提言」の出し方を変えていく方向であることが紹介された。また、学術会議の国際委員会の活動と各年に学術会議主催の国際シンポジウムも開催していることが紹介された。

（４）IYBSSD の動向

ユネスコが 2019 年 11 月に、2022 年を International Year of Basic Sciences for Sustainable Development(IYBSSD)とすることを決議した。従来からユネスコによる科学に関する国際年への対応は学術会議で行ってきているが、Basic Sciences とあって対象が幅広い。そこで個別の既存分科会による対応ではなく、学術会議の下の国際委員会あるいはその下に IYBSSD 推進分科会(仮称)を設置する形で対応することを、第二部と第三部の該当委員会及び分科会からの連名で、梶田学術会議会長宛に提案している。佐竹委員が地球惑星科学委員会 IUGG 分科会からの担当である。

（５）その他

学術会議のもとに新たに設置された「カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議(第一回)」が 9 月 16 日に開催され、内部資料に基づき、中村尚委員から説明があった。第一部、第二部、第三部の全てにわたる非常に多くの委員会・分科会（9 月 13 日で 79）が登録されている。主旨説明、既に実施中の各委員会からの活動紹介（e.g., 水産、工学、FE WCRP）のあと、各委員会・分科会の位置付けを示す俯瞰図が示され、地球惑星科学委員会の各分科会の位置付けが紹介された。学術会議全体で中長期的に取り組むべき一つの課題と思われ、情報提供、交換が重要である。

5 配布資料

資料 1：第 25 期・第 1 回 IUGG 分科会議事録

資料 2：小委員会報告

資料 3：IUGG Executive Committee meeting 報告